

市会議案第30号

生理の貧困への対応策を求める意見書

上記の議案を提出する。

令和3年12月20日提出

吹田市議会議員 馬場慶次郎

同 西岡 友和

同 山根 建人

同 玉井美樹子

生理の貧困への対応策を求める意見書（案）

現在、経済的な理由などで生理用品を買うことができない、いわゆる生理の貧困の問題が顕在化している。このような課題に向き合う任意団体が本年2月から5月にかけて、高校生以上の生徒、学生等を対象にアンケートを実施しているが、その結果では、過去1年以内に金銭的な理由により生理用品の入手に苦勞したことがあるとの回答は約20%にも上っている。問題の背景には、単なる経済的な理由だけでなく、DVやネグレクトのほか、家庭の事情により子供が親に相談しづらい状況など、様々な社会的課題があるとも言われている。

コロナ禍が長引く中、本年3月、国は地域女性活躍推進交付金の補助率を時限的に引き上げ、地方公共団体による生理用品の提供などの取組を交付金の対象にする予算措置を行った。また、その後も、交付金の活用事例に関する地方公共団体等への情報提供や、交付金の公募などの取組が進められているが、生理の貧困は女性の健康や尊厳に関わる重要な問題であり、コロナ禍をきっかけとした一時的な取組にとどまらず、一層手厚い支援が継続的に行われるべきである。

よって、本市議会は政府及び国会に対し、生理の貧困の問題及びその背景にある様々な社会的課題を解消するための施策を拡充し、かつ継続的な支援に取り組むよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和3年12月 日

吹 田 市 議 会